

2022年12月期 中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日

上場会社名 株式会社五健堂 上場取引所 東
 コード番号 9146 URL <https://www.gokendo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 蓮尾 拓也
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 小林 一彦 (TEL) 075(612)6688
 中間発行者情報提出予定日 2022年9月30日 配当支払開始予定日 —
 中間決算補足説明資料作成の有無 : 無
 中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期中間期の連結業績 (2022年1月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同中間期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 中間純利益 | |
|--------------|-------|------|------|------|------|-------|---------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年12月期中間期 | 3,742 | 12.9 | 285 | 17.4 | 356 | △12.2 | 186 | △35.7 |
| 2021年12月期中間期 | 3,313 | — | 243 | — | 405 | — | 290 | — |

(注) 中間包括利益 2022年12月期中間期 186百万円 (△40.9%) 2021年12月期中間期 316百万円 (—%)

| | 1株当たり 中間純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益 |
|--------------|----------------|---------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年12月期中間期 | 144. 19 | 143. 18 |
| 2021年12月期中間期 | 274. 00 | — |

(注) 1. 当社は、2020年12月期においては中間連結財務諸表を作成していないため、2021年12月期中間期における対前年同中間期増減率を記載しておりません。

2. 2021年12月期中間期における潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、当社は非上場であったため、期中平均株価を把握できないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|--------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年12月期中間期 | 10,614 | 2,913 | 27.4 |
| 2021年12月期 | 7,955 | 2,726 | 34.3 |

(参考) 自己資本 2022年12月期中間期 2,913百万円 2021年12月期 2,726百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | |
|---------------|-------|-------|-------|
| | 中間期末 | 期末 | 年間 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年12月期 | 0. 00 | 0. 00 | 0. 00 |
| 2022年12月期 | — | — | — |
| 2022年12月期(予想) | — | — | — |

(注) 1. 2022年12月期の中間期末配当予想および期末配当予想につきましては、現時点では未定としております。

2. 2022年12月期の中間期末配当につきましては、2022年8月25日の取締役会にて審議を予定しており、決議次第あらためてお知らせいたします。

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|------|------|------|------|-----|-----------------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 8,161 | 21.2 | 690 | 84.2 | 684 | 3.0 | 429 | 6.8 | 331.52 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 (中間期) : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

| | | | | |
|----------------------|--------------|------------|--------------|------------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 2022年12月期中間期 | 1,295,000株 | 2021年12月期 | 1,295,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 2021年12月期中間期 | 一株 | 2020年12月期 | 一株 |
| ③ 期中平均株式数 (中間期) | 2022年12月期中間期 | 1,295,000株 | 2021年12月期中間期 | 1,060,000株 |

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 当中間決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 中間連結財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 中間連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (会計方針の変更) | 11 |
| (追加情報) | 11 |
| (セグメント情報) | 11 |

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスに対するワクチン接種の進展等により感染者数が抑制されたことに伴い、消費や投資が拡大傾向となる等、経済活動正常化の動きが見られました。しかしながら、その一方でロシア・ウクライナ情勢に起因する資源価格の高騰や急速に進行した円安等の影響による物価上昇もあり、依然として先行き不透明な環境が続いております。

そのような状況下における当社グループの業績につきましては、生活に不可欠な食品物流を主軸としていることもあり、ロジスティクス事業の売上については、比較的堅調な推移となりました。ただし、前期はコロナ禍の巣ごもり需要を主因として好調であったスーパーマーケット関連及びパンの共同配送による物流が、コロナ禍以前の水準に戻りつつある中で、外食産業向けの物流については、回復傾向にはあるものの、以前の水準までは戻りきっておらず、ウイズコロナへの過渡的な動きを反映した結果となりました。また、ワクチン配送等の需要が継続しているメール便部門は依然好調に推移しており、当中間連結会計期間に新たな子会社が増えたことと合わせて、グループ全体の増収に寄与しております。加えて不動産事業が堅調に推移した総合物流マネジメント事業、前期に喫茶部門が時短営業を余儀なくされたフード&サービス事業についても、社会生活正常化に伴い増収となっております。

一方で利益面については、供給不足・円安等を原因とする燃料費の高騰等、様々なコストアップが収益を圧迫することとなり、利益率向上の阻害要因となったことや前中間連結会計期間に収益を押し上げた保険解約金、有価証券売却益等の特殊要因が無かったこと及びM&A仲介手数料の支払等を主因として、前期比で減益となっております。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は3,742,110千円（前中間連結会計期間末比12.9%増）、営業利益は285,666千円（同17.4%増）となり、上記のM&A仲介手数料48,000千円の支出等があったため、経常利益は356,160千円（同12.2%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は186,729千円（同35.7%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

①総合物流マネジメント事業

総合物流マネジメント事業は、不動産事業が堅調に推移したこととM&Aによる業容の拡大等があり、売上については順調に推移いたしました。しかしながら、利益につきましては、各種値上りによる諸経費の増加等があり、前中間連結会計期間末比で減収となりました。

この結果、セグメント売上高297,833千円（前中間連結会計期間末比20.9%増）、セグメント利益52,214千円（同31.6%減）となりました。

②ロジスティクス事業

ロジスティクス事業は、食品物流を事業の核としていることもあり、堅調な推移となりました。また、当中間連結会計期間に新たに増えた子会社も業績に寄与することとなりました。

この結果、セグメント売上高2,735,421千円（前中間連結会計期間末比13.3%増）、セグメント利益223,991千円（同25.8%増）となりました。

③フード&サービス事業

フード&サービス事業につきましては、社会生活の正常化に伴い客足が戻りつつあり、業績は回復

傾向に転じました。

この結果、セグメント売上高708,854千円(前中間連結会計期間末比8.7%増)、セグメント利益9,460千円(同16,538千円増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ503,035千円増加し、3,858,086千円となりました。これは主に、「現金及び預金」が227,088千円、「受取手形及び売掛金」が190,428千円増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ2,155,309千円増加し、6,756,218千円となりました。これは主に、「土地」が546,251千円、「建物及び構築物」が326,250千円、「建設仮勘定」694,188千円それぞれ増加したこと等に伴い有形固定資産が1,658,739千円増加したことと、無形固定資産が「のれん」の407,416千円増加を主因として404,550千円増加したことによるものであります。

その結果、当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,658,345千円増加し、10,614,304千円となりました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ775,362千円増加し、3,033,294千円となりました。これは主に、「支払手形及び買掛金」が420,567千円、「一年以内返済予定の長期借入金」が152,327千円それぞれ増加したこと等によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,696,157千円増加し、4,667,650千円となりました。これは主に、「長期借入金」が1,700,383千円増加したことによるものであります。

その結果、当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,471,519千円増加し、7,700,944千円となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ186,825千円増加し、2,913,359千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上に伴い「利益剰余金」が186,729千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ214,193千円増加し、2,297,745千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因については、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は440,536千円であります。税金等調整前中間純利益356,722千円に対し、減価償却費(のれん償却を含む。)186,860千円、未払費用110,055千円の増加等が主な増加要因であり、一方、保険解約収入25,115千円の振替調整、その他負債の減少70,906千円、法人税等の支払額195,151千円等が主な減少要因となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は1,387,979千円であります。支出の主な要因は、有形固定資産の

取得による支出1,049,826千円、子会社株式取得による支出403,602千円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,161,636千円であります。主な増加要因は、長期借入金の借入による収入1,708,000千円、主な減少要因は、長期借入金の返済622,778千円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経済環境につきましては、一旦は収束に向かうと思われた新型コロナウイルスの感染状況が、オミクロン株のBA.2やBA.5への置き換わりにより再拡大していることや、ロシア・ウクライナ情勢が当初の予想を大幅に超えて長期化していること等の影響で、引き続き先行き不透明な状況が継続することが想定されます。

そのような環境下ではありますが、当社グループにつきましては、主力であるロジスティクス事業を中心に、引き続き増収増益を実現するべく積極的な事業展開を図ってまいります。特に当中間連結会計期間において、M&Aにより新たに2社（有限会社六ツ星運送・株式会社三輪タイヤ）をグループ化したことに伴う業容拡大及びシナジー効果が、業績の底上げに寄与するものと考えており、従来からの3PL事業[※]伸長への取組みと合わせて、当社グループの企業価値向上へ向けたエンジンと位置付けております。

各セグメント別の見通しとして、総合物流マネジメント事業については、新規顧客の獲得が堅調に進んでいることに加え、健全な物流機能を維持するべく取り組んできた運賃改定への努力が徐々に実を結んできており、上昇する各種コストの影響を一定程度吸収し、業績向上につながるものと考えております。またロジスティクス事業につきましても、上記M&Aによる効果とともに、生活に欠かせない食品物流を手掛けている強みにより、引き続き堅調な推移を見込んでおります。前期において最もコロナ禍の影響を受けたフード&サービス事業につきましても、コロナ禍の再燃による行動自粛の影響が懸念されるものの、客足は確実に戻りつつあり、新規事業である「BOSS CLUB（ゴルフ練習場・飲食店・リラクゼーションサロンの運営）」への取組みと合わせて業績向上に貢献するものと判断しております。

これらの状況を踏まえ、2022年12月期連結業績については、売上高8,161,654千円（前連結会計年度比21.2%増）、営業利益690,641千円（同84.2%増）、経常利益684,721千円（同3.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益429,312千円（同6.8%増）を見込んでおります。

※ 3PL（サードパーティ・ロジスティクス）事業とは、荷主に対して、物流改革を提案し、包括して物流業務を受託する事業をいいます。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

| | (単位：千円) | |
|-------------|--------------------------|---------------------------|
| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当中間連結会計期間 (2022年6月30日) |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,580,847 | 2,807,936 |
| 受取手形及び売掛金 | 609,309 | 799,738 |
| 棚卸資産 | 16,711 | 100,017 |
| その他 | 149,682 | 153,626 |
| 貸倒引当金 | △1,500 | △3,232 |
| 流動資産合計 | 3,355,050 | 3,858,086 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 2,319,566 | 2,645,817 |
| 土地 | 1,380,292 | 1,926,544 |
| 建設仮勘定 | 169,565 | 863,753 |
| その他(純額) | 173,848 | 265,896 |
| 有形固定資産合計 | 4,043,272 | 5,702,011 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 32,066 | 439,482 |
| その他 | 28,298 | 25,432 |
| 無形固定資産合計 | 60,364 | 464,914 |
| 投資その他の資産 | 497,270 | 589,291 |
| 固定資産合計 | 4,600,908 | 6,756,218 |
| 資産合計 | 7,955,958 | 10,614,304 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当中間連結会計期間 (2022年6月30日) |
|----------------|--------------------------|---------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 240,975 | 661,542 |
| 短期借入金 | 300,000 | 450,000 |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 966,036 | 1,118,363 |
| リース債務 | 40,260 | 25,231 |
| 未払法人税等 | 162,848 | 165,579 |
| 賞与引当金 | 46,227 | 50,559 |
| その他 | 501,583 | 562,016 |
| 流動負債合計 | 2,257,931 | 3,033,294 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,572,464 | 4,272,847 |
| リース債務 | 29,135 | 20,580 |
| 退職給付に係る負債 | 65,957 | 66,309 |
| 資産除去債務 | 216,786 | 218,747 |
| その他 | 87,149 | 89,165 |
| 固定負債合計 | 2,971,493 | 4,667,650 |
| 負債合計 | 5,229,425 | 7,700,944 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 496,500 | 496,500 |
| 資本剰余金 | 470,000 | 470,000 |
| 利益剰余金 | 1,762,944 | 1,949,673 |
| 株主資本合計 | 2,729,444 | 2,916,173 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △2,910 | △2,813 |
| その他の包括利益累計額合計 | △2,910 | △2,813 |
| 純資産合計 | 2,726,533 | 2,913,359 |
| 負債・純資産合計 | 7,955,958 | 10,614,304 |

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

①中間連結損益計算書

| | (単位：千円) | |
|-----------------|--|--|
| | 前中間連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) |
| 売上高 | 3,313,644 | 3,742,110 |
| 売上原価 | 2,412,832 | 2,735,917 |
| 売上総利益 | 900,812 | 1,006,193 |
| 販売費及び一般管理費 | 657,572 | 720,526 |
| 営業利益 | 243,240 | 285,666 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 773 | 23 |
| 受取配当金 | 422 | 140 |
| 有価証券売却益 | 53,263 | — |
| 保険解約収入 | 65,467 | 25,115 |
| 時短要請協力金 | 21,200 | 38,363 |
| その他 | 39,811 | 67,569 |
| 営業外収益合計 | 180,939 | 131,212 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 14,786 | 12,620 |
| 有価証券売却損 | 3,515 | — |
| 支払手数料 | — | 48,000 |
| その他 | 172 | 98 |
| 営業外費用合計 | 18,474 | 60,718 |
| 経常利益 | 405,705 | 356,160 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 26,666 | 1,581 |
| 子会社株式売却益 | 2,996 | — |
| 特別利益合計 | 29,663 | 1,581 |
| 特別損失 | | |
| 会員権評価損 | 5,940 | — |
| 固定資産除却損 | 0 | 1,019 |
| 特別損失合計 | 5,940 | 1,019 |
| 税金等調整前中間純利益 | 429,428 | 356,722 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 158,736 | 187,194 |
| 法人税等調整額 | △19,751 | △17,201 |
| 法人税等合計 | 138,984 | 169,993 |
| 中間純利益 | 290,443 | 186,729 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | — | — |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 290,443 | 186,729 |

②中間連結包括利益計算書

| | (単位：千円) | |
|----------------|--|--|
| | 前中間連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) |
| 中間純利益 | 290,443 | 186,729 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 25,913 | 96 |
| その他の包括利益合計 | 25,913 | 96 |
| 中間包括利益 | 316,357 | 186,825 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 316,357 | 186,825 |
| 非支配株主に係る中間包括利益 | — | — |

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

| | (単位：千円) | |
|-----------------------|--|--|
| | 前中間連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 | 429,428 | 356,722 |
| 減価償却費 | 161,663 | 160,808 |
| のれん償却 | 31,617 | 26,051 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △2,162 | 2,366 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 11,348 | △767 |
| 退職給付にかかる負債の増減額 (△は減少) | 825 | 352 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,196 | △164 |
| 支払利息 | 14,786 | 12,620 |
| 固定資産売却益 | △26,666 | △1,581 |
| 固定資産除却損 | — | 1,019 |
| 有価証券売却損益 | △49,748 | — |
| 子会社株式売却益 | △2,996 | — |
| 会員権評価損 | 5,940 | — |
| 保険解約収入 | △65,467 | △25,115 |
| 売上債権の増減 (△は増加) | 96,919 | 27,941 |
| 棚卸資産の増減 (△は増加) | △612 | △4,593 |
| 預け金の増減 (△は増加) | △119,627 | — |
| その他資産の増減 (△は増加) | 31,389 | 71,282 |
| 未払消費税等の増減 (△は減少) | △18,577 | △33,679 |
| 未払費用の増減 (△は減少) | △24,034 | 110,055 |
| 前受収益の増減 (△は減少) | 6,002 | 10,962 |
| 資産除去債務の増減額 (△は減少) | 1,980 | 1,961 |
| その他負債の増減 (△は減少) | △30,914 | △70,906 |
| 小計 | 449,896 | 645,337 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,177 | 159 |
| 利息の支払額 | △9,744 | △9,808 |
| 法人税等の支払額 | △105,082 | △195,151 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 336,246 | 440,536 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △34,900 | △42,760 |
| 定期預金の払戻による収入 | 72,400 | 72,431 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △1,994 | — |
| 有形固定資産の取得による支出 | △36,594 | △1,049,826 |
| 有形固定資産売却による収入 | 27,689 | 1,581 |
| 投資有価証券購入による支出 | △15,206 | — |
| 投資有価証券売却による収入 | 304,423 | — |
| 保険積立金積立による支出 | △15,948 | △16,752 |
| 保険積立金解約による収入 | 109,086 | 62,590 |
| 子会社株式取得による支出 | — | △403,602 |
| 子会社株式売却による収入 | 2,996 | — |
| その他 | △4,140 | △11,642 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 407,812 | △1,387,979 |

(単位：千円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) |
|---------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金（純額） | — | 100,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △688,839 | △622,778 |
| 長期借入金の借入による収入 | — | 1,708,000 |
| リース債務返済による支出 | △35,412 | △23,584 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △724,261 | 1,161,636 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 19,797 | 214,193 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,114,770 | 2,083,551 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 1,134,568 | 2,297,745 |

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。また、当中間連結会計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、中間連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて

新型コロナウイルス感染症の収束時期はいまだ不透明であり、先の見通しが困難なところではあります。2022年12月期中間期において、フード&サービス事業については増収となっており、収益力を大きく変化させるほどの影響はないと想定して、繰延税金資産の回収可能性等を検討しております。

ただし、新型コロナウイルス感染症の再拡大及び長期化により業績に大きな影響を与える場合には、繰延税金資産の回収可能性等の判断に影響を及ぼし、翌事業年度の経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、以下の3事業を報告セグメントとしております。

| セグメント区分 | 主要業務 |
|--------------|-------------------------------|
| 総合物流マネジメント事業 | 物流センター運営、倉庫事業及び事務所、マンションの賃貸事業 |
| ロジスティクス事業 | 食品及びメール便の物流業務 |
| フード&サービス事業 | コメダ珈琲店及びファミリーマートの運営 |

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの損益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格等に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報 前中間連結会計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 中間連結財務諸表計上額 |
|-------------------|------------------|---------------|----------------|-----------|----------|-------------|
| | 総合物流 マネジメント事業 | ロジスティクス 事業 | フード& サービス事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 246,378 | 2,415,325 | 651,940 | 3,313,644 | — | 3,313,644 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 341,929 | 25 | — | 341,954 | △341,954 | — |
| 計 | 588,307 | 2,415,351 | 651,940 | 3,655,599 | △341,954 | 3,313,644 |
| セグメント利益又は損失(△) | 76,286 | 177,986 | △7,078 | 247,194 | △3,954 | 243,240 |
| セグメント資産 | 4,372,310 | 1,909,633 | 874,357 | 7,156,301 | — | 7,156,301 |
| セグメント負債 | 3,645,379 | 959,244 | 868,166 | 5,472,790 | — | 5,472,790 |
| その他の項目 | | | | | | |
| 減価償却費 | 95,251 | 50,818 | 47,210 | 193,280 | — | 193,280 |

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去の差異△3,954千円によるものであります。

当中間連結会計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 中間連結財務諸表計上額 |
|-------------------|------------------|---------------|----------------|------------|----------|-------------|
| | 総合物流 マネジメント事業 | ロジスティクス 事業 | フード& サービス事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 297,833 | 2,735,421 | 708,854 | 3,742,110 | — | 3,742,110 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 345,894 | 132 | — | 346,027 | △346,027 | — |
| 計 | 643,728 | 2,735,554 | 708,854 | 4,088,138 | △346,027 | 3,742,110 |
| セグメント利益 | 52,214 | 223,991 | 9,460 | 285,666 | — | 285,666 |
| セグメント資産 | 6,507,760 | 3,164,563 | 941,980 | 10,614,304 | — | 10,614,304 |
| セグメント負債 | 6,562,005 | 397,143 | 741,796 | 7,700,944 | — | 7,700,944 |
| その他の項目 | | | | | | |
| 減価償却費 | 108,355 | 55,380 | 23,124 | 186,860 | — | 186,860 |